

2021年1月3日(日)朝10:10

降誕節第2、自由交歓会等

1月第1年頭聖餐総員主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**神の王子の自由**(26～27)

聖書:マタイ 17章21～27節

<口語訳>

新約聖書28～ 頁

マタイ 17章21～27節

<新共同訳>

新約聖書34～ 頁

マタイ 17章14～20節

<新改訳第3版>

新約聖書35～ 頁

マタイ 17章14～20節

<塚本訳>

新約聖書120～121頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:21～27節**の箇所から、「**神(天)の国**」(「**神の真理・真実**」)の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**ピリポ・カイザリヤ**から**ガリラヤ**に帰り、弟子たちにご自身の死と復活について予告をなさいました。
- ⇒それは、弟子教育のために、群衆やその他の**ユダヤ人**のためでもありませんでした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**出エジプト記30章11～16節**に律法として規定されていた宮への納入金のことにつれ、譬えを用い、王子には納税の義務がないと語りつつ、人々をつまづかせないために、魚から銀貨を取って、納税することをなさいました。ユダが財布を管理していたので、納税できたのですが、弟子たちの教育のため、奇蹟をされました。

本論；

◇本日、**マタイ書21:14～27節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ17章21～27節**；**使徒マタイ**は、「**神の王子の自由**(26～27)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**マタイ17:21～27節**；**塚本訳**◆

「21 [無し]

◆**受難の予告第二**<22～23>

22 一行がガリラヤを旅行しているとき、イエスは(また)弟子たちに言われた、「人の子(わたし)は人々の手に引き渡されねばならない。

23 彼らに殺されるが、三日目に復活する。」弟子たちは非常に悲しんだ。

◆**宮の奉納金の取立て**<24～27>

24 彼らがカペナウムに来たとき、宮の奉納金の取立て人がペテロの所に来て言った、「あなた達の先生は奉納金を納めないのか。」

25 ペテロが「もちろん、納められる」と言う。そして(イエスの)家に行くと、イエスの方から言い出された、「シモン、どう思うか、この世の王た

ちは官税や税をだれから取るだろうか。自分の子供たちだろうか、それとも余所の人からだろうか。」

26 「余所の人から」と答える。イエスは言われた、「それでは(神の)子供たちには(納める)義務はない。

27 しかし人々をつまづかせないため、湖に出かけて行って釣針を垂れよ。最初に釣れた魚を取って口をあけるとスタテル銀貨(二千元)が一つあるから、それを取って、わたしとあなたの分として取立て人に渡しなさい。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ17:22～23節** ; 「彼らに殺されるが、三日目に復活する。」弟子たちは非常に悲しんだ(22)、「一行がガリラヤを旅行しているとき、イエスは(また)弟子たちに言われた、「人の子(わたし)は人々の手に引き渡されねばならない(23)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たち」に、旅の途上のガリラヤで「ご自身の死と復活」について、予告されました。

⇒**マタイ16:21**と**マタイ17:12**の予告に続くもので、弟子教育が第1目的でした。

⇒「人々の手に引き渡される」のは、主ご自身ですが、主語は、弟子のイスカリオテのユダという理解と**父なる神ご自身**という理解があり、両方とも方であろうと、**SY師**は、仰せです。

⇒**KT師**と**OA師**は、主語を**父なる神ご自身**としておられます。

⇒「**悪霊・悪魔**」が、ユダを誘い出したとしても、**父なる神ご自身**が、主権をもってなされたことは、事実で、それ以外に、罪人が罪から死から救い出していただく方法はないことを示して下さったのです。

⇒ヨハネ3:16【口語訳】

16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちだけのために死んで下さったのではなく、「世」を愛して下さったとある通り、全ての罪人を愛して下さったのです。平然と**神**に逆らい、無視する人々のためにもです。

⇒十字架の上で、「彼らはなにをしいるか分か

らないのです。彼らをお赦してください」との主の祈りが、**神の愛**を現してくださる究極の姿でした。

◇**マタイ17:24～27**；「彼らがカペナウムに来たとき、宮の奉納金の取立て人がペテロの所に来て言った、「あなた達の先生は奉納金を納めないのか(24)」と、それに、「ペテロが「もちろん、納められる」と言う。そして(イエスの)家に行くと、イエスの方から言い出された、「シモン、どう思うか、この世の王たちは官税や税をだれから取るだろうか。自分の子供たちだろうか、それとも余所の人からだろうか(25)」と問われ、「余所の人から」と答える。イエスは言われた、「それでは(神の)子供たちには(納める)義務はない(26)」と、「しかし人々をつまずかせないため、湖に出かけて行って釣針を垂れよ。最初に釣れた魚を取って口をあけるとスタテル銀貨(二千年)が一つあるから、それを取って、わたしとあなたの分として取立て人に渡しなさい(27)」と、仰せられたのです。

- ⇒「官税」は、「神殿税」とも言い、神殿の修繕や修復等に用いられる人頭税で、直接税の義務が課せられました。主も、弟子も、年1回、過越祭の前に納めていたのですが、今回は、少し遅れていたようで、徴収人が集金に来て、「あなた達の先生は奉納金を納めないのか」と、少し嫌味と疑いをもって、詰問したのです。
- ⇒ペテロは、「もちろん、納められる」と言いますが、「**御子イエス・キリスト様**」は、その一部始終を聴いておられました。
- ⇒そして、譬えをもって、「この世の王たちは官税や税をだれから取るだろうか。自分の子供たちだろうか、それとも余所(よそ)の人からだろうか」と問われ、ペテロが「余所の人から」と答えると、「それでは(神の)子供たちには(納める)義務はない」とお答えになり、「しかし人々をつまずかせないため、湖に出かけていって釣針を垂れよ。最初に釣れた魚を取って口をあけるとスタテル銀貨(二千円)が一つあるから、それを取って、わたしとあなたの分として取立て人に渡しなさい」と、「ユダに預けた財布」からではなく、自然をも支配なさる主は、

最初に釣れる魚から取れる銀貨を税金として納めるように仰せになったのです。目的は、領主や**ユダヤ人指導者**を躓かせないためでした。

⇒「躓く」は、「罪を犯させるとか悪くいう」の意味があるようです。**ユダヤ人指導者らの問題**です。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」が、譬えで語りたかったことは、**神**と主を愛するものは、全て**神の子**であるということで、この世の権力者からは自由であるが、人として地上に生きる限り、人としての義務、納税義務は果たせということです。神社、仏閣への負担金などは、当然、義務ではありません。

⇒キリスト者は、あらゆる権力や権力・世の権威者からは自由です。

⇒ピリピ²:4~6【口語訳】

4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のこととも考えなさい。

5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

- 6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、
- 7 かえって、おのれこの世の王たちは官税や税をだれから取るだろうか。自分の子供たちだろうか、それとも余所(よそ)の人からだろうか
- ⇒納税の義務を果たす時も、人の顔色を見ず、愛の主の思いを持って納金したい。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ17:21～27節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、ピリポ・カイザリヤからガリラヤに帰り、弟子たちにご自身の死と復活について予告をなさいました。
- ⇒それは、弟子教育のためで、群衆やその他の**ユダヤ人**のためでもありませんでした。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、出エジプト記30章11～16節に律法として規定されていた宮への納入金のことに触れ、譬えを用い、王子には納税の義務がないと語りつつ、人々をつまずかせないために、魚から銀貨を取って、納税することをなさいました。ユダが財布を管理していたので、納税できたのですが、

弟子たちの教育のため、奇蹟をされました。

⇒1ペテロ2:15～17【口語訳】

15 善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じるのは、神の御旨なのである。

16 自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。

17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。

⇒マルチン・ルターは、キリスト者の自由で、2つの命題を掲げました。「①キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な主人であって、だれにも服しない。

②キリスト者はすべてのものに仕える(このことのできる)僕であって、だれにでも服する」と。

⇒**神**が託してくださる自由は、だれにも支配されず、だれにでも仕え、従えるのです。